

SA1 葛西キャサリン伸彦選手、MR2で全日本初優勝!



密かなSW20 MR2の聖地として知られる千葉県ダート出身の葛西キャサリン伸彦選手。2本目にベストを刻み、待望の全日本初勝利をモノにした。

全

日本ダートトライアル第8戦今庄は、ラス前ということで各クラスのタイトル争いが激化していた。しかし、勝負の展開で注目を浴びたのはSA1。今庄名物の硬く引き締まった良好な路面を舞台に、後輪駆動マシンが台頭した。

全日本ダートラのSA1は、EK9シビックやDC5インテグラのほか、N1から流入してきたDC2インテグラなど、ダートラの名車がひしめいているが、SW20 MR2も奮闘している。

SW20は全日本ジムカーナでは一時代を築いた名車として知られるが、ダートラではマイナーな存在。しかし、中国地区のSW20使い矢野淳一郎選手が、2011年JAFカップでメジ

ャー大会初勝利を飾っており、この今庄でも2014年に北陸の前田幸男選手が改造車のSW20で全日本SC1で初優勝を挙げている。

今大会には、SW20を駆り3年連続中部RWDチャンピオンを獲得している横内由充選手と、JMRC千葉県戦FRクラス出身で、昨年の今庄で3位表彰台を獲得している葛西キャサリン伸彦選手が、激戦区にSW20を持ち込んだ。

決勝第1ヒートでこそ、中部期待の若手でDC2使いの浦上真選手が暫定トップを計測したが、第2ヒートで大きく変わった路面ではリザルトが一変。第1ヒート14番手だった横内選手が、1本目の暫定ベストを約3秒引き離して、ベストタイムを更新してきた。

そして、シード勢の少し前に出走した葛西キャサリン伸彦選手が、横内選手を1秒以上引き離す1分32秒971のベストを計測してきた。

続く浦上選手は34秒台に留まり、シード勢で肉薄できたのはマツダスピードアクセラを駆る崎山晶選手の1分33秒306。最終走者の稲葉幸嗣選手も1分34秒台に終わってしまう。

この結果、第2ヒートでスーパーベストを叩き出した葛西キャサリン伸彦選手が、ナンバー付きのSW20に全日本ダートラ初勝利をもたらし、自身の全日本初優勝も飾ったのだ。

「公開練習から割と順調でしたが、1本目では“やらかし”がなくて9位だったんで、2本目は036を履いて勝負に出ようと思いました。

SA1 / 1.優勝した葛西キャサリン伸彦選手は「今年の路面は昨年に比べて少し信頼性がなかったんで、丁寧かつ慎重な走りでした。踏み抜くところは踏み抜いて、踏まないところは転がして……という走りが、珍しく上手にできました」と語る。2.崎山晶選手がコマ約3秒差の2位。3.CJ4Aの若澤研一選手が3位。4.SW20使いの横内由充選手は4位。5.1本目番長の浦上真選手が5位。PN1 / 6.嬉しい今庄での優勝は山崎利博選手。PN1では初のタイトルを確定。「いやー何年ぶりかなあ(笑)。今年は乗り方も変えたし、練習もしっかりやりました。途中から表彰台を外さないように走れたので、チャンピオンが獲れそうかなという感触ができました。今回は、もう叫びながらのゴールで(笑)。これで勝てなかったら仕方ないと思える走りができました。恥ずかしながら、全日本開催8回目にして今庄初優勝なんです(笑)」とは山崎選手。7.公開練習から参戦した工藤清美選手がGKフィットでは自己最上位となる2位。8.上野倫広選手が3位でタイトルを逃した。



その割り切りのおかげで、思い切った走りもできた『やっちゃいけないこと』も全部クリアできて、『これを本番でやりたいんだよ』という練習会での走りが、本番でできました。

丸和や今庄は、結構走ってますからね。ま

あ、アウェイで勝ってこそ本物(笑)。エスダブで連勝でしないと、世間は認めてくれませんよ」と控えめに語る葛西キャサリン伸彦選手。嬉しさを抑えつつ、勝って兜の緒を締めた。

なお、今大会では、PN1で山崎利博選手が

2012年のSA1以来4回目、SC1で山崎迅人選手が2年連続2回目、SC2で田口勝彦選手が2016年以来3回目の全日本タイトルを確定。

残るは、PN2の細木智矢選手と宝田ケンシロ一選手による最終戦タカタの一騎打ちとなった。

PN2 / 9. 宝田ケンシロ選手に約1.5秒差を付けた優勝は細木智矢選手。「走りはノーマスでした。今庄は、滑る舗装を走るイメージで、堅実にインを外さず、最短距離を走るのが大切だと思います。そういうミスを最小限に抑える走りが『絶妙に』できました。今回は直線の手前のコーナーがすべて上手く決まって、未体験なくらい車速が乗りましたからね」と自己分析。10. 宝田選手は2位で最終戦勝負に持ち込む。11. 今村宏臣選手が3位。N2 / 12. 優勝は2013年以来、ランサーでは初優勝の西田裕一選手。「今庄は近いので、練習しないボクでも年に2〜3回は来るんです(笑)。2週間前の練習会でもええタイムで走ってたんで、失敗せずに走れたら結果は出ると思ってましたが、正直、優勝とは」と笑う。13. 北條倫史選手が2位。14. 矢本裕之選手が3位。



N1 / 15. 昨年の勝者・森大士選手は2位。16. 前田利幸選手が3位。17. 優勝は岡翔太選手。「昨年はタイヤ選択で悔しい思いをしたので、今年は路面状況とかを良く観察して、根拠のある自信を持ってスーパードライを選びました。それでスタートしたら、もう効果てきめんの路面で(笑)。これは来たなという感じで気持ち良く走れました」と笑顔。SC1 / 18. 優勝は山崎迅人選手。SC1連覇も確定。「2本目はA036に合わせた走りができたと思います。手応えもググッと来たし頭も入ったし『ああサンロクの路面や!』ってガツポーズ状態でしたな。ターボ車なんてタイヤの空転には気を使うんですが、今回

は2速でガツと踏んでも付いてくる感じだったので、すごく気持ち良かったです」。19. マツダスピードアクセラの坂田一也選手が2位。20. 奥村直樹選手は3位でタイトル争いに破れた。SC2 / 21. 梶岡悟選手は2位でSC2連覇ならず。22. 磯貝雄一選手が3位。23. 優勝は田口勝彦選手。「2本目の路面は予想より乾いていたので、タイヤ選択はギリギリまで悩みました。いざ走ったら036の路面だったので、間違いなかったですね。ラインも狭かったので、フロントを追い越さない程度のスライダングルに留めて走ってました」と、2年ぶりのSC2タイトル奪取。次の挑戦にも期待だ。

SA2 / 24. 新時代を予感させるSA2の勝利は黒木陽介選手。「まさかまさかの優勝で、表彰台では重鎮に挟まれて緊張しました(笑)。タイヤも74Rと88Rで悩んだんですが、チャレンジするつもりで88Rを選びました。2本目を走ってみたら大きなミスもなく自分の理想の走りができたと思いま

す!」と自信を深めた。25. 荒井信介選手が2位。26. 北村和浩選手が3位。D / 27. 優勝は川崎勝己選手。「今庄の攻略法は少し掴めたので、本当は1本目で試したかったんですが、電装系トラブルで2本目勝負になりました。8の字の攻略に不安があったので、慣熟歩行では8の字だけ10周ぐらい回りました(笑)。自分のスタイルとはちょっと違うんですが、インだけは外さない『セウ!』走りでしたな。やっぱ、10年のブランクは大きいです(笑)。今回はサビ付いた引き出しが、少しだけ開くようになったかな(笑)」と安堵の表情。第1ヒートトップの谷田川敏幸選手は鬼門の8の字でドライビングミス。17位に終わる。28. 河内渉選手が2位。29. 亀田幸弘選手が僅差の3位。

